

平成23年3月12日開催の講演報告



講演会「生老病死:尊厳ある生き方と医療・介護」報告

2011年3月25日

日本尊厳死協会四国支部高知 会長 北村龍彦

日本尊厳死協会四国支部高知主催の講演会を、2011年3月12日土曜日 13:30 から 16:00 まで、高知城の近くにある高知城ホールにて開催されました。前日の3月11日金曜日 14:46 に発生した M8.4(その後 M8.8 を経て最終 M9.0)の東北地方太平洋沖 地震(その後東北関東大震災に名称変更)と津波の影響で、開催すべきかどうかと 悩みましたが、予定通り開催させていただきました。出席者は約 140 名で、この時期にもかかわらず多くの方に参加していただき感謝申し上げます。

当日のメインテーマは「生老病死:尊厳ある生き方と医療・介護」とし、まず基調 講演として、昨年会長に就任した北村龍彦から開催の趣旨と医師としての自己の経験、体験などを基に「生かされる命と終末期・尊厳死を考える」と題して講演が行われた。

今回の講演を機に参加者の皆さんに、終末期や尊厳死に関する色々な考え方や医療の現状を示し、現在生かされている自分を見つめ直して、悔いのない人生を送りどのような最期を迎えるのか考えてもらうように訴えかけた。

引き続き、シンポジウムを「死生観:尊厳ある生き方と地域医療・介護」のテーマで医師・看護師・一般の代表 4 名の講師に各々のお考えや体験をお話しいただいた。訪問看護ステーションの看護師のお二人は、今回の津波の影響で、直前まで在宅患者のお世話に奔走されていたとのことである。講演順に内容をまとめると、

1. 土津井篤子氏:「尊厳死を望む人生」と題して、尊厳死協会に入会した経緯や父上のみとりの体験から尊厳死について自己の考えを披露された。
2. 小松倫子氏:訪問看護師の立場から、地域の医療介護の基盤や在宅での社会資源の活用法と基礎的な知

識を示していただいた。

3. 弘末美佐氏:がんの終末期の訪問看護師として、高知県の取り組みや、独居の がん患者の在宅みとりの感動的な自己体験などを披露していただいた。

4. 伊与木増喜氏:クリニックの院長として、在宅で尊厳死を迎える事例や、急遽 入院となり医療機関で死を迎えた例など 4 名の患者さんの終末期から死を迎える経過をお話いただき、様々な終末期・尊厳死の迎え方を示された。

今回の講演会を契機に生かされる命と終末期・尊厳死を考えるきっかけになれば幸いと考えます。

以上

